

令和５年度 第２回
金峰山少年自然の家整備運営審議会・
熊本市立野外教育施設運営協議会
合同会議 会議録要旨

I 開催日時 令和５年８月２日（水）午前９時３０分～１１時４５分

II 開催場所 熊本市教育センター ４階大研修室

III 出席者

【金峰山少年自然の家整備運営審議会】

河上 強 委員長 （前 NHK 学園高等学校指導部長、元熊本市教育次長）
神毛 恵 副委員長（税理士、行政書士）
大西 康伸 委員 （熊本大学大学院 先端科学研究部教授）
柿本 美樹枝委員 （設計事務所主宰、日本建築家協会）
吉田 洋一 委員 （熊本学園大学経済学部准教授）
柴田 治穂 委員 （熊本市立西原小学校教諭、前熊本市立黒髪小学校校長）
森 近 委員 （熊本県キャンプ協会会長）
沖永 千奈 委員 （熊本大学メイクフレンズ）欠席

【熊本市立野外教育施設運営協議会】

大西 康伸 委員 （熊本大学大学院先端科学研究部 教授）
池田 由美 委員 （熊本市立田迎南小学校 校長、熊本市教科等研究会）
内田 淑子 委員 （熊本県キャンプ協会 理事）
本田 奈緒子委員 （熊本 Y M C A 御船町スポーツセンター 所長）議長
山本 一郎 委員 （熊本市子ども会育成協議会 会長）
西村 一弘 委員 （芳野校区自治会連合会 会長）
鑑 和昭 委員 （河内校区自治協議会 事務局長）
下大迫伸一 委員 （熊本森林管理署 森林技術指導官）
荒川 紀代子委員 （公募委員、社会教育士、野外活動指導者）
清田 晃子 委員 （熊本市 P T A 協議会 常任理事）欠席

【事務局】

原口 琢哉 （地域教育推進課長）
小原 恵二 （地域教育推進課課長補佐）
寺崎 真治 （地域教育推進課主査）
神田 夏彦 （地域教育推進課参事）
坂田 蘭子 （地域教育推進課参事）
金峰山ビレッジ株式会社

IV 会次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 金峰山少年自然の家新施設整備運営事業について
 - (1) これまでの経緯について
 - (2) 新施設設計について
 - (3) 今後のスケジュールについて
- 4 その他
- 5 閉会

開会

(司会) おはようございます。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

令和5年度、第2回金峰山少年自然の家整備運営審議会、熊本市立野外教育施設運営協議会の合同会議を開催したいと思います。開会にあたり、原口地域教育推進課長よりご挨拶を申し上げます。

(課長) 皆様おはようございます。地域教育推進課の原口でございます。

本日は、大変ご多用な中にもかかわらず、河上委員長様、本田議長様をはじめ、各委員の皆様、そして三津野建設をはじめとする金峰山ビレッジ関係者の皆様、熊本大学大学院の大西先生のゼミ生の皆様のご出席を賜りまして、合同会議が開催されますことに感謝申し上げます。

当初は、審議会と協議会を別々に開催する予定で計画を進めておりましたが、なるべく多くの委員の皆様のご出席を賜ります期日を設定する中で、本日が最も委員の皆様のご出席が多い日であったということで合同の会議となった次第でございます。ご理解のほどをよろしくお願いいたしますと思います。

さて、4月から始まりました解体作業も本格的に作業が進んでまいりますが、これまでに、大気汚染防止法の改正等によりまして、新たにアスベストの調査、追加処理という課題等も出ておりますが、関係者の皆様の真摯にご尽力をいただきまして、そういった問題も徐々に解決され、この事業が順調に計画が進んでおりますことを、まずこの場をお借りしましてご報告をさせていただきます。そして、委員の皆様からたくさんのご意見をいただいたことをもとに、新施設の設計案のほうも最終段階でございます。

本日は大変短い時間ではございますが、忌憚のないご意見をいただきまして、熊本市の子どもたちをはじめ、多くの市民の皆さま、また熊本市外の皆様がたくさん集まり、そして集い、そして学び合える場の野外教育施設となりますように、お力添えをいただきますようお願いをして甚だ簡単ではございますが、ご挨拶にさせていただきたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(司会) 続きまして、本会議の成立についてご報告いたします。

本日、柿本審議会委員と池田協議会委員は Zoom にてご参加されております。また、沖永審議会委員、清田協議会委員より欠席のご連絡をいただいております。よって審議会委員8名中7名の出席、また協議会委員10名中9名の出席ですので、両運営要綱に基づき、本日の会が成立していることをご報告します。

それではただ今から協議に入ります。まずは、審議会の河上委員長と協議会の本田議長からご挨拶をいただき、代表して河上委員長に議事進行をお願い申し上げます。

(委員長) おはようございます。本日は、審議会と運営協議会の皆さんと合同で審議していくということになりました。お許しをいただいて、代表して挨拶、そして進行を務めさせていただきますと思います。

ただ今、原口課長のほうから順調に進んでいるということで、大変うれしく思っております。振り返って見れば、令和3年9月からですね。まだコロナの終息が全然見通せない中で、新しい自然の家を再建させようという、やった熊本市はと正直思って、この委員

を喜んで引受けさせていただきました。審議する中で直営にするか、あるいは民間の資金やノウハウを活用してPFI方式にするかも審議し、特別目的会社（SPC）をつくって、解体、整備から運営まで任せようということに決定しました。

本当にそういう会社が出てくるのかなと。公平公正に事業者を選定する段階で厳しい要求水準書と評価基準を設けて手を挙げてくれるかなと正直心配していましたが、複数の会社が手を挙げてくださいます、素晴らしい会社を選ぶことができました。その会社が金峰山ビレッジ株式会社で、本日も数名出席いただいています。

いよいよ設計も固めて、あとはここにお見えの運営協議会の皆さんに、教育施設の運営をいかに熊本市民や子どもたちのために効率よくしていただくか。また、この後も審議を来年、再来年と続けていかれると思いますが、そういう私たちの思いを託して、審議会は今日で10回目で最後になります。仕上げの審議会になります。どうぞ皆さん有意義な、そして積極的なご意見をお願いしたいと思います。以上、簡単ですが挨拶にさせていただきます。それでは、本田議長さんご挨拶をお願いします。

（議長）皆様おはようございます。私は、運営協議会の議長を授かっております、本田奈緒子と申します。よろしくお願いいたします。

今回、合同で会議が開催できるということで、私たちのほうも、お話をした内容を皆様方とすり合わせをしながら、色んな角度で意見交換の場ができるということをととてもうれしく思っております。

先ほど河上委員長から仕上げの会議とおっしゃっておられましたので、そこから私ども一步一步、思いも一緒に受け継ぎながら、この場で活発な議論をしながら、引き継いでいきたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

（委員長）本田議長さん、ありがとうございます。それでは、会次第に沿って会議を早速進めてまいりたいと思います。議員の皆様、よろしくご協力をお願いいたします。

まず、「金峰山少年自然の家新施設整備運営事業」（1）これまでの経緯について、事務局に説明をお願いいたします。

（事務局）これまでの経緯について、会議資料に基づき説明。

（委員長）これまでの計画、特に私どもの審議の過程で出ました改善点等、随分多く注文をつけたような気がしますが、対応していただいているように思います。

それから新しくアスベストの問題も出たようです。今の件についての説明について、質問、ご意見等ございましたら、どなたからでも結構ですのでよろしくお願いします。

（委員）滑り台のことですけど、ファイルの18・19Pにあると思うのですが、18Pのチューブタイプだと、中に居る子どもが見えないのと、大人が入れないのかなと思いました。いざという時の緊急避難用にも、ぜひ滑り台が必要と思うのですが、形的に19Pの外からも見えるタイプだと、大人も滑れると思いました。その検討をしていただけないか。いざという時に、チューブは中に人がいるのが見えないんじゃないかなということと、太陽光とかで劣化が早いのではないのかなと思いました。

(金峰山ビレッジ) 環境デザイン研究所です。滑り台についてお答えします。大人は入れないのではないかということについて、滑り台は大人も入れますのでそこは支障ありません。あと子どもが詰まってしまった時に見えないという点については、滑り台の半分程度をポリカーボネートとし、中が見えるようにしようと考えております。

前提として、子どもが詰まることはほとんどありません。これは質問の答えになってないかもしれませんが、外が見えたほうが安心というお話もありますので、そういった意味でポリカーボネートを入れています。

避難用に使用するというお話をいただきましたが、これは前回の会議でもお知らせしたと思いますが、本当に避難用に使用する場合は、鉄製またはステンレス製で燃えてはいけないものとする必要があります。

また、避難の経路としては広場側に逃げるというよりは、多目的ホールの人たちが逃げる場合をメインとして考えられますが、その人たちが、駐車場側に向かって逃げるのが通常の避難経路になると思います。

滑り台を使って逃げるというのは逆側に逃げるということになり、滑り台を避難用として使用するの、なかなか考えにくいというふうに考えていまして、基本的には遊具として使用していただく計画で考えております。

さらに、事例として示させていただいた、格子状の滑り台で出来ないかという話ですが、避難用として計画した場合、認定を取る必要があります、形状に制約が出てしまうというのが大きな条件として加わります。

今回、下に防火水槽があり、これを残して地域防災のための消火水、ここは基本的には残してほしいということです。実は、ワイルドタワーの位置を変えた経緯があり、そこを残しながら子どもたち、利用者がより楽しめるような施設づくりをするために滑り台を設置すると、かなり特殊というか、その地形に合わせた形状にする必要があります。そうするとFRP製のほうがより対応しやすいです。耐久性についても、かなり汎用されている物ですので支障はないと思います。

(委員長) ありがとうございます。委員よろしいですか。

それではほかにございませんか。

(委員) 排水計画ですけれども、図面を出していただきまして本当ありがとうございます。異常気象で、今年も短時間雨量で50ミリを超えるような、雨の降り方があっておりますので、計画いただいたように、宿泊棟とか、敷地内の水没とか、そういったことは極力避ける必要があるのかなと思っていました。ありがとうございます。

ただ、想定量としてどのぐらいのことを今、計画してこういった図面が出てきたのかそこだけ教えていただければと思います。

(委員長) 想定雨量として、どの程度の雨量を計算されたかということです。

(金峰山ビレッジ) 提示させていただいている資料の左下に、大雨時の流出量確認ということで、この計算上100ミリ、1時間当たり100ミリを想定しています。つまり、右側の色を塗っているゾーンに、100ミリの雨量があったとしても、支障がないような計

画をして、計算上確認が取れています。

（委員長）ありがとうございました。ほかにございませんか。

（委員）ビニールカーテンについてお尋ねしたいんですが、これは常設でしょうか。気になるのが美観上ちょっとよろしくないってことがあって、新品の状態だとまだいいのかなと思って、だんだん汚れて、運営上これを常設じゃないにしても畳んだり、設置したりというのはないのかなと考えたら、こういう形ではなくて別の形での解決、検討出来ないのかと思ったのですが、このあたりはいかがでしょうか。

（委員長）横風による大雨対策ですよ。いかがでしょうか。

（金峰山ビレッジ）ビニールカーテンについて、これはＳＰＣ内で議論しています。仮設として考えています。大雨の時や天気予報を見ていただいて急遽設置し、常設ではなく、その都度対応するような考え方で計画しています。

（委員）その時だけの対応ですね。

（金峰山ビレッジ）そうです。格納スペースだとかその辺りも、これからよく精査しないといけないです。

（委員長）よろしいですか。ほかにございませんか。

（委員）先ほどの雨水の排水ですが、この排水というのは排水溝を流れて、どちらの方に水が流れていくか、流末処理といいますか、どちらのほうに流れていくのか。周辺は国有林ですが、そこ辺を聞いていく必要があると思い質問させていただきました。

（委員長）はいお願いします

（金峰山ビレッジ）基本は敷地内の浸透で考えています。あとは、北側に側溝があるのでそこに接続している部分もあります。

（委員長）敷地内の排水が、どちらへ流れ込むかということですそうですね。簡単に言えば、国有林の方へ落ちていく、上から下へ水が流れますのでそういうふうな考えですか。

（金峰山ビレッジ）資料を見ていただきますと、丸印で浸透枳が書いてあって、そこで浸透させ、あと北側に既存側溝に接続と記載しており、そこに接続しています。ただし、想像以上の雨量があった場合は、どうしてもオーバーフローしてしまいます。

宿泊棟Ｂ棟には、オーバーフロー管を設けて、擁壁の部分から若干オーバーフローさせて、擁壁の外も敷地内ですので、その下で浸透するように計画検討しています。

(委員長) 重ねて私のほうから念のため質問ですが、溢れた雨水が下に流れていく。下の方に例えば民家があって、簡易水道の水源とかそういうのを心配するんですが、それはないと一応調査済みということでしょうか。

(金峰山ビレッジ) 厳密には調査をしていません。

(事務局) 南側は国有林、あとはミカン畑等になっております。民家が近隣になく、また水源的なものがないと把握している状況です。

(委員長) 管理運営面で、後からしまったということにならないように確認しました。ほかにございませんでしょうか。

(委員) 先ほどの計画の中で、横からの雨に対する対策として、ビニールカーテンをその都度設置するというお話でしたが、通常そういう大雨のときは風が大変吹き、普通下の方がはためくから、余計邪魔じゃないかと思ったりするんですけど、下の方や横のところを固定するとか、その辺はその都度設置すると逆に大変じゃないと思いました。ビニールカーテンに関しては、余計、邪魔に見えるんだけどどうなのかな。私としては入口のところに常設で木の板を打ちつけてもらったほうがよっぽど目隠しと雨よけになるんじゃないかと思ったりもします。まずその点が一点。

もう一つは、靴とか衣類の乾燥機の配置です。野外多目的ハウスに設置というご説明でしたが、私のイメージとしては、メインの管理棟の方にあると思いました。なぜかというところ、ここに来るまでにどれだけ濡れるか、靴が濡れるという状況は、相当雨が降っていますよね。衣類とか靴を乾燥させるために、ここまで歩いて来るのか。ここまで到達するのに、どういうふうに歩いてここまで到達するのか。渡り廊下のところが先ほど言ったように、ビニールシートがバタバタはためいている状況で、結構風が強いからどのみち降り込むだろうなというのと。それまでに、例えば一番端っこの所から歩いてくる。それまでに相当濡れるのではないかとどう思うかというふうに思ったりもするんです。

それでいったら、どのみち、管理棟の方に置いていても濡れるのではないかという話ではありますが。あとここにあるってことは、例えばテントサイト利用者、そういう方も利用できるんですか。コイン式かなんかになっているのですか。

(委員長) ビニールカーテンと乾燥機について、2点よろしくお願いします。

(金峰山ビレッジ) ビニールカーテンにつきましては、上と下に丸環を付けてロープを這わせて下も留めています。ですので、バタバタしないようにしています。具体的な留め方については、工事段階で詳細検討しなければいけませんが、丸環に S フックを付けて両上下端でひっかけて、留めるというのを今のところ考えています。

客室等への出入りの所の吹込みをどう評価するかですが、出入りの所を極力濡れないようにするというのも一つの考え方だとは思いますが、基本的には水平に移動した場合、なるべく移動する方々が濡れにくいような計画とすることを重点的に考え、宿泊棟の壁がないところに、ビニールカーテンを設置するというような計画としています。

靴乾燥機の位置については、現状ベースで考えますと、敷地の北側に乾燥機があって、恐らく雨に濡れた状態でも行き来しながら、運用されていたということが予想されます。ですので、そこからは大きく変わらない状況で、場所としては屋外多目的ハウスに設置するというところでよろしいのではないかと思います計画しております。

(事務局) 靴乾燥機の場所ですが、現在の食堂棟の北側、土手のところにプレハブとかを置いていました。そこに乾燥機の上だけ屋根をつけて、濡れていくというような場所でしたので、野外での活動、グループ活動で数十人行った場合、まず、屋根付があるところがいいだろうというのが1点。それから、動線的には、雨天時に屋外での活動をした者が通常靴がびしょ濡れになりますので、先ほどおっしゃっていただいたテント利用者も含めて、適正な位置と判断をしているところです。

(委員長) 委員よろしいでしょうか。ほかにございませんか。

(委員) オンラインで失礼いたします。よろしくお願いいたします。技術的な話になりますが、質問が性能面で3点、あと気になった安全面と維持管理面でございます。合計5点を確認させていただきたいと思います。

まず実施設計、随分水の処理、排水計画について詳細設計のほうありがとうございます。感謝申し上げます。構造図のほうが、私の方に届いていませんので、構造的な確認をさせてください。

品格法の耐震等級3同等、地域係数は1.0、でというお話で、採用させていただいた経緯があります。実際に、耐力壁の材料というか、宿泊棟とかどういったもので、構造を確保されているのか、そして計算方法、許容応力度計算になると思うんですが、地域係数が確実に1.0でなさっているのか。その技術的な確認が1点。

2点目が、昨今、省エネ法なんかも改正がどんどんなされていますけれど、今の国の基準として等級6・7が新しく出来ております。

採用された当初、省エネ等級の断熱は4までだったと思うんですが、ZEH(ゼッチ)で5という形で、今実際に等級が幾つで設計なさっているか。省エネに関しての断熱等級はいくつか？

3点目が、仕上げに関してです。シックハウスの対策面として、CSの会の皆さんと協議していただいていると思います。議事録も拝読しました。その中にもありましたけれどもリボスという塗料は天然塗料ですが、シックハウスの方に、アレルギーを引き起こしてしまう事がありまして、それを避けてほしいというご意見も出ていました。私も実際リボスはアレルギーを起こすので採用せず、蜜蝋とかアamani油を使うんですけれども、共用部分の下足入れですね、体育館の所がまだリボス塗料になっていました。共用部分では、極力そういう声が上がった部分は、改善できないかなと思いその後どうなったのか、どのような仕上げに対応されているのか。まず、性能面としてはこの3つを先に、あと残りは回答いただいた後に申し上げます。

(金峰山ビレッジ) まず1点目の構造についてですが、耐震性能については、この場で数値をすぐに提示できませんが、着手時に回答させていただいた、所定の耐震性能を満たす

ような設計にしております。

耐震要素はどのようなものを使用されているかという質問について、耐震壁については、構造用合板の9ミリ、もしくはOSBの9ミリを基本として耐震壁を採用しております。1階、2階の床面の水平方面については、構造用合板の24ミリ。屋根面の構造用合板については、基本的には延焼ラインがかからない防火構造にならない部分については構造用合板の12ミリ、防火構造に関わる部分については構造用合板の30ミリを採用しております。

次に、2つ目の質問の断熱等級について、こちらは明確には断熱等級の設定はしていません。ただ、具体的な断熱材の寸法を申し上げますと、外壁はポリスチレンフォーム3種Bの40ミリです。屋根面の野地板部分については、3種Bの60ミリを設けて、床下は40ミリです。窓のガラスについては、空気層12ミリのLow-E複層ガラスを採用しております。これで、かなり高い仕様になると考えています。ZEH（ゼッチ）まではちょっとさすがに見込んでおりません。

リボス塗装については、図面の不手際で文字が残ってしまっているようでして、体育館の家具については、オイルステインとウレタンクリアーとしています。CSの会さんと、化学物質過敏症に対応した計画の検討を議論させていただいているんですけども、化学物質過敏症の方が使用できる部屋を、ある程度特定してあげて計画を進めている状況です。

具体的には、管理棟の研修室・エントランスホール・保健室・宿泊棟6の1階・2階・食堂棟の食堂とトイレ、その部分については、基本塗装はなくす。塗装をするにしても、米油系の塗装にする。あと、宿泊棟6の2階は特に、化学物質過敏症の重度の方でも利用できるように部屋にしてほしい。というお話をいただいておりますが、そこについては、杉の匂いも厳しいとのご意見もいただいておりますので、そこはもう、壁紙を基本的に張るとか、木部分については比較的匂いの問題が少ない赤松を使わせていただくとか、そういった仕上げの調整を行わせていただいております。

先ほどの体育館のリボス塗装ですけど、恐らく最新の情報ですと既製品の下足入れになっています。柿本さん質問ですけど、下足入れの塗装ですか。リボスが残っていたのかも知れません。

（委員）リボスという言葉が残っていたので。既製品でも合板を使うとアレルギーを起しますけど、要は配慮されているのであれば大丈夫です。耐力壁は面材ですか。

（金峰山ビレッジ）そうです。今回、筋交いは場所によっては若干補助的に入れている部分もありますが、概ね合板による耐力壁です。

（委員）そうすると、耐力強度はビスに頼るということですね。

（金峰山ビレッジ）そうです。基本的には木造で下地仕上げ材に合板をいずれ使いますので、それを耐力要素としても使用して、よりリーズナブルに仕上げようとしています。

（委員）そうすると、湿気対策とか、結露とかそういうことで性能が落ちないように、

合板だけに頼るというのがなかなか木造では、建売住宅ではよくあることですが、そこに頼り過ぎて良いのかなっていう、工事監理も大変ですけど、それぞれ確認し、しっかり監理していただいて、ただ耐久性とかメンテナンス的に、合板だけに頼ることで、筋交いを入れないというのがどんなものかなと、仕上がりがわからなかったのが疑問であったのですが、仕方ないですかね。耐震等級は、等級3を確保ということですね。

(金峰山ビレッジ) 等級は確認します。

(委員) 次に、いただいた資料で皆さんがわかりにくいかもしれませんが、前々から気にしていた安全面のロフトの部分窓と手すりの落下防止、それから今回出てきたロフトの手すりのピッチが350mmと透け透けで出てきていますけども、このあたりは例えば皆さんの資料のお手元だと、多分5ページですかね。ここに、5Pと3Pあたりに、手すりのピッチが350程度、これは、窓の方の落下防止で、今回図面にバラを入れるとか窓の隙間を開けるのを小さくするという事はなかったと思いますが再確認ということ。

ロフトの間は、35cm空いているという、先生方よろしいでしょうか。ネット張ったり、もうちょっと細かいピッチにしたりとか、配慮はしなくて良いか。高さが元々60cmと低いものですから、乗り越えてしまえば落ちますけど、フラットなので滑ったときはスルッと落ちてしまう状況で、立ち上げが全く無いので、これは心配しています。

例えば、小さい方がいらっしゃると私は少なくとも、落下防止、物が落ちないとか、10cmでも、5cmでも3cmでもいいんですけど、物が滑り落ちない立ち上がりを付けてあと、バッテンにしたり、何かそういう配慮がないとスルッと落ちたりするのではないかと気がしました。

(金峰山ビレッジ) ロフトの手すりについては、今最新の情報と若干違っておりまして、実はVRで、熊本市さん、金峰山ビレッジの運営担当、R.projectさんと確認させていただいております。やはり隙間は30cmぐらいあるのはちょっと怖いとのことで、これは実施設計の途中段階で、途中段階のロフトの高さを見直した時点のVRですけども、そこは隙間を小さくするように実施設計は変更しております。具体的な寸法は隙間は、10cm程度で見直しをかけております。

あと高さは、1階のロフトについては、60cmでも階高が低いので、そんなに怖くないというか、逆に高くし過ぎると柵みたくなってしまうので、効果的ではないかなと思いついて60センチでも、大きな支障はないかなというふうに考えて60cmとしています。

2階については、天井かさが高いものですから、これから30cm上げて、90cmの高さに実施設計は変更しております。そういった対応で進めております。

床面からの立ち上がりや設けということについては、使い勝手を踏まえたときに、部屋を囲むように、ロフトないし、2段ベッドが配置されていますので、足を掛けて、下をのぞき込むような使い方、そういうコミュニケーションの在り方、立体的な使い方は、この宿泊室の一つの魅力なのではないかなと思っておりまして、あえて立ちあがりや設けずに格子の間隔を極力小さく、10cm程度でしたら、子どもの足は通りますので、そういったような対応で進めていこうかなと考えております。

あとは斜め材を入れるとかそういったことをしますと、どちらかというと水平に近い材

を入れるとそれが逆に足がかりになってしまう可能性が高まってしまうため、基本的には縦の格子でやっておこうかなというふうに考えています。

格子隙間については、隙間を広くし過ぎると、子どもの頭がひっかかって20cm程度この頭がひっかかって首がひっかかってしまう。そこでパニックを起こしてしまったりする、そういった恐れもありますし、もっと小さくし過ぎると、指等が引っかかって折れてしまうというような、かなりデリケートな寸法のレンジとなります。そういったところで、10cmぐらいが一番安心なエリアかなというふうに考えておりまして、その辺りで計画は見直しを図っております。

あと、サッシの開口制御については、以前御指摘いただいたとおり、大きく開かない9cmぐらいしか窓が開かないような開口制御をつけて、対応する方向で設計を進めております。

(委員) ありがとうございます。縦格子が入る時点でそれは落下防止になりますので、起ち上げは要らないと思います。今おっしゃったように90mm以下ですね。赤ちゃんが落ちない90mm。100mmだと落ちるって言いますが、2階に赤ちゃんが上がることはないでしょうから、その10cmぐらいの隙間で子どもが落ちにくいということは良いと思います。ありがとうございました。今の図面より変わっているということですね。

最後に、維持管理の面でもう1点。皆さんの御手元の資料だと、3Pの右下の断面図です。今回、基礎を気密パッキンとされていて、床下換気はない考えですね。

(金峰山ビレッジ) そうですね。はい。

(委員) この、GLライン(地盤)から床ラインが近いですね。私が気にしているのは、これだけ湿気が多いところで、換気も出来ない床下が大丈夫なのかということで、対策はどう考えてらっしゃるかを確認したいんですけども、なぜ懸念するかというと、まずここに、四角い斜めに入ってくる木材だと思うんですが、当然、木材は調湿効果で、湿気を吸ったり吐いたりしますので、まずこの木材の換気が床下でないとすると、床に何か換気口を設けていらっしゃるかが1点目。

それから、この基礎がずっとつながっていますよね、スラブで。ということは、ここに雨が入って熊本の気候はよくカビますよね。起ち上げの基礎とかはカビカビになります。この湿気が、基礎に入っていったら床上に上がってくことは十分考えられて、通常基礎の下に防湿シートを張ったり、碎石をしたりして床下からの湿気を遮りますが、このままだと確実にここはカビますし湿気します。これの対策をどう考え、これしか立ち上げが無いので、大雨が降ったときも当然流れてくる前提ですけど、逆流はしないようにパッキンは入っているのですが。この立ち上げは、心持とない気がしております。そういう風土的な問題ですね、やっぱり都心部で周りが全部アスファルトで乾燥したような地域ではないので、完全にここに非常に湿度が70%~80%ある地域なので気になりました。

反対側ですね、ここも同じように屋根があり、直接雨は入らないとは思いますが、やはりここも立ち上がりの基礎の湿気、ここにコンクリートの部材だけではなく、撥水をするのか、防カビ塗料を塗るのか湿気が入らないように対策をお願いしたい。実際、詳細図をもっています。どうなのかなと詳細を確認したところ、このように、こちら側が何もない

んですね。外壁の立面図を見ると。塗料が塗られると書いてあるんですが、通常直接湿気が来ますので撥水塗料だったり、防カビ対策をしておかないと必ず湿気が入ってきます。

通常、木造ですと、ここを床下換気をしてその湿気が入ってくるのを前提で換気をしますので、長く丈夫にもつのですが、このままだとかの湿気を吸ってしまう。床下がどのように維持管理面として、シロアリ対策も全然メンテナンス出来ないし、見えないし入れないので、点検口か何か設けてあるか、気になりました。

それに加えて、回廊廊下、基礎が埋め込まれて、鉄柱がメッキで錆びない材料になっていますが、この仕上げを何でされるのか、通常ずっとここが湿気があって水が入るところで、当然スッキリしたデザインで格好いいけど、錆びたり、傷んだりしたときは簡単に外せてメンテナンスができるのか？基礎の所は見えなくなる所で気になりました。維持管理面の防雨対策、湿気対策をどのような考え方が教えてください。

（金峰山ビレッジ）基礎下の湿気対策については、防湿シートの0.1mmから0.2mm位の物を敷設して、地面の湿気は上がらないようにして、というようなことを対応しています。コンクリートの立ち上り面についてなんですけど、外壁は撥水系のカラークリア塗装という物を図面上は見込んでいまして、撥水材で、コンクリート自体が耐久性が高くなるような、塗料を見込んでいます。

冒頭にいただいた基礎パッキンが、気密が良いか、通気パッキンが良いかというのは、これはゼネコンさんと相談して検討させていただきます。

床下の換気は、基本的には外部からの湿気が極力入らないようにしています。前提として、前段で寺崎さんからお話いただいた、バリアフリー対策がかなり、この建物に影響しておりまして、前面の回廊から、極力床面が上がらないようにしてほしい、何ならゼロにしてほしいというふうな、強い要望をいただいている中で、最初150cmぐらい立ち上りを見ていましたが、結果としては50mmとし、それを前提に、どうか頑張っていくかっていうのを、今まで検討している状況です。その対応として先ほど申し上げたような内容があります。

その上で、床は下の換気を積極的に行う換気を行うといっても、床下の空気を部屋内に循環させるという対応が考えられると思いますので、例えば、トイレの床にスリットを設けて、トイレは基本的には換気、トイレやシャワー室は換気扇が動いていますので、そこから床下の空気を吸い込んで、床の上に床下の空気を吸い上げて、外に吐き出す様な事が考えられます。今、考えながら話してしまっただけ申し訳ありませんが、その辺りはゼネコンさんと相談しながら、検討させていただきます。

（委員）このことで設計をされている産紘設計さんが入られているので、お尋ねですが、この程度のレベルの高さと基礎の考え方で、熊本では事例がありますか。

（金峰山ビレッジ）産紘設計です。うちでここまで基礎で床下がない木造の事例はないです。

（委員）そうすると、カビ対策というのは、重々やっておかないと危険なのかなと。

(金峰山ビレッジ) そうですね、さっき話あったように、床下の換気は何か検討が要るかと思いますので、今から検討したいと思います。

(委員) 是非、地域の気候風土を理解されている方に経験とお知恵を出していただいて、良いものにしていただければと思います。よろしくお願いします。

(委員長) はい、ありがとうございます。検討するという回答もいただいております。先の予定もございますので、協議2のほうに移ってよろしいでしょうか。新施設の設計について事務局に説明をお願いします。

(事務局) VR更新の説明。

(委員長) VRのほうがまた新しく出来ているということで、大西委員よろしいでしょうか。

(委員) 金峰山ビレッジさんから、ご紹介していただけますでしょうか。

(金峰山ビレッジ) VRを見せながら施設、外構等の説明。

(委員長) 素晴らしいVRが出来ております。もっと詳しく疑似体験したい方はどなたかございませんか。先ほど、熊本城の瓦を敷設するということですが、そこはどの辺りに具体的にになりますか。

(金峰山ビレッジ) まだ、検討中です。今、瓦を受け取っている状態で、その状態を確認させていただいた上で、どこにどう設置するかは、決めていければなと思っています。

ただ方法としては、回廊の舗装の部分に、瓦をちりばめるとか、コンクリート舗装の部分で、瓦を埋め込みやすいようなふうに見込んでおりますので、その辺りをメインにやっていくのと、あと、蛇籠と言って、網の籠に石を入れた土留めがあるんですけども、それに瓦を入れてあげる、場所という、宿泊棟Bの北側の段差の部分の土留めに瓦を入れてあげるというのも考えております。

(事務局) 先日、瓦が三の丸広場に置いてありますので、三津野建設さんと搬出に行きました。大きさがばらばらなんで、これぐらいの大きさであったり、これぐらいであったり、また小さいものが多いという状況です。桔梗の紋のお宝も見つけました。それから、慶長7年とか実際、作った時の瓦の年号が入っているという瓦とか、展示できる部分もあるのかなと思います。ですから整備だけではなくて、歴史学習にもつながり活用があるのかなと思います。

(委員長) 素晴らしいですね。慶長7年と言ったら400年以上前ですか。よくヨーロッパなんかは、ローマ時代の施設の上に新しいビルを建てるけど一角を誰々皇帝の城壁とか石垣とか、よく説明してありますよね。新しい施設にそういうものが入れば、またず

っと子どもたちに教材といいますか、市民にとっても、愛着が出てくる施設になるんじゃないかと期待しています。ほかに何かございませんか。

(委員) 屋外多目的ハウスですが、野外炊飯場で調理して食べる場所、作業する台、そういったものはある程度設置していただけないか。そうしないと、なかなか既存のテーブルを持ち込むっていうのもですね。出来たら、今後備品で入れるのか、作り付けで入れるのか。そんな高額なものは入れる必要ないと思いますけど、結局そこで活動して食事が出来たり、工作が出来たり、作業台みたいなものを設置検討していただければと思います。

(委員長) よろしいでしょうか。設備面についてのお願いです。

(事務局) 実際、運営面であったり、活動プログラムをどのように展開するのかというのも R.project さんが直接運営されますけれども、設備面も含めて備品計画をされます。その辺もしっかり金峰山ビレッジ内でお話をいただきたいと思いますし、私どもも一緒になって考えてまいりたいと思います。

(委員長) ほかに委員の皆さんいかがでしょうか。

(委員) 子どもたちを集団宿泊教室に連れていく引率者の立場として VR を見させていただきました。ロフトや2階に上がったたりするということで、引率者として一番大変に思うのが、退所時の布団や毛布をきちんとたたみ、シーツと枕カバーの枚数を数えて返却するというのがすごく大変で、子どもたちも班長を中心になりますけども、担任の先生がチェックをして、そこを施設の方がまたチェックされるということで、非常に大変な思い出があります。その辺の運営あたり、今と同じならば、大変になるのかなというふうに予想しましたので、そこあたり計画はありますか。

(委員長) これはですね、本当に小さな問題のようですが、引率者にとっては大きな問題ですね。退所前になって「やり直し」とか言われた経験が私もありながら、勝手な話ですが、それで大幅に予定が変更になる。その間に子どもたちの集中力はかけてきて、事故を招くとか、そういう面も難しい面がありますが、これは管理運営面になりますが、いかがでしょうか。

(金峰山ビレッジ) 運営を致します R.project です。よろしくお願いします。お子様たちが宿泊体験をされるということで、リネンの数を数えて、設置をして後片づけまでといった一連の宿泊の生活体験としてご提供させていただきたいと思っております。

例えば、リネンを使いやすいようなリネンの種類を選ぶとか、あと設置の仕方、片づけの仕方などの、わかりやすいPOPですとか、あと入所式の時にご説明ができるような形なども検討しております。

そして、その最後にチェックのところでございますけれども、これにつきましても、今、ご意見をいただきましたところですので、いただきましたご意見もちょうだいして、検討の材料とさせていただきます。今後、先生方の大きなご負担にならないような形で、

運営としても考えていきたいと思います。検討いたしましたところで、ご相談をさせていただきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

(事務局) 今、R.project さんが、今後の貸出し、返却等について検討されるとおっしゃっていただきましたが、同じ県内の施設でも、委員もご承知のとおり、阿蘇青少年交流の家では、数はきちんと取っていき、返却時はカゴの中に入れると。班長さんを中心に子どもたちにしっかりチェックをさせて入れるように指導もされています。今までのやり方がどうだったのか、当然良い面もありますけれども、時間的な部分とか、子どもに責任を持たせるとか、自主性を育むという観点も一緒に私ども考えていきたいと思いますし、また学校の引率いただく先生たちのご意見も、委員がおっしゃったように、しっかり聞きながら、検討してまいりたいと思います。

(委員長) 利用者としては児童生徒が中心になるかと思いますので、そういった心配も学校側でもあるし、また一方、ファミリー向けも以前にもまして、大いに活用してもらうというような施設になると思います。多様なニーズに対応できるような運営面で、しっかり検討していただきたいなと思います。ほかにございませんか。

(委員) 私が言うより、ちょっと伺ってみたいところなんですが、一番最初に分棟形式のときに、どういうふうに引率者が見て回るんだっていう懸念があったかと思うんですけど、監視カメラに関しては、記述があるんですけども、室内でインターフォンとか、その辺の連絡の取り方とかが具体的にどうなっていて、それを引率者の方がそれでいいのかどうかを、確認させていただければと思います。まずそれが1点。

あと先ほどVRを見て、大浴場は最大どの位の人が一度に入れるのか。私が小学校の時に利用していた昔のお風呂は、大体金峰山から下りてきてみんなはお風呂に入りに行くから、一度に1クラスぐらいは、1クラス男女それぞれ、20人位は簡単に入るような大きさだったと思うんですけど、今、設計されてるこれで、どれ位入れるのでしょうか。最大でどれ位の人数が利用できるかの2点お尋ねします。

(委員長) 管理棟との連絡、引率者との連絡とお風呂の収容人数。よろしいでしょうか。

(事務局) 宿泊棟との連絡等についてはR.projectさんお答えいただけますでしょうか。

(金峰山ビレッジ) 引率者様との連絡でしょうか。引率者様と私たち運営とのやり取りで良かったでしょうか。

(委員長) それから引率責任者が控えていると思いますが、分離棟ですのでなかなか連絡がうまくいかないところがあるかと懸念されます。

(金峰山ビレッジ) 建物が分離されてれているというところで、具体的なお答えは、今ここでさせていただくことは出来ませんが、もちろんインターフォンの設置ですとか、あとは、インカムの設置ですとか様々なツールを使いまして、すぐにご連絡がとれるよう

な形を検討していきたいと思っています。

確かに分離されているというところでの不安は確かに想像が出来ますので、幾つかの提案をさせていただきまして、引率者の先生方にも安心していただけるようなご案内をさせていただきたいと思っておりますので、こちらも検討材料としてお預かりさせていただきたいと思います。

（委員長）それからお風呂の収容人数と、あわせて設備面で監視カメラとかそういうので確認をお願いします。

（金峰山ビレッジ）お風呂の収容人数は、要求水準書で確か男女それぞれ20名は同時利用できるように指定がございましたので、そこを満たすように計画しています。それは具体的どういう基準でというのは、明確な基準はないんですけれども、結果として、洗い場は1部屋たしか10ヶ所設けたと思います。お風呂も、同時に20人入ると考えにくいので、流れ流れで上手に回っていただければ20名は入れると考えております。少なくとも、もともとあった自然の家のお風呂よりは相当広くなっております。数値は今すぐ出てこないんですけれども、2倍から1.5倍ぐらいの大きさになっていると思いますので、その辺り定員については、十分対応できるというふうに考えております。

あと宿泊等の連絡、連携につきましては、部屋の中にインターフォン、内線を設けておりますので、そこで連絡連携をとっていただくというのは用意できるかなと考えております。

（委員長）関連で確認ですけれども、障がいを持った子どもたちへの配慮を、少し画面見ながら心配です。

（環境デザイン研究所）まず、出入口についてですが、ご覧のとおり段差がなく、そのまま入れるような計画をしております。扉も当然引き戸で、幅も90cm、車椅子の十分ワイドがとれるような計画をしております。

中入っていただいて、手洗いのところの洗面台の一部が、下収納ついているんですけど、車椅子用に収納がない分もあります。そこに車椅子使用者の足が入るようになっています。

中に入っていただいて、洗い場については入ってすぐ左側のところに、ちょっと出っ張ったところがあると思うんですけど、これが車椅子の方も利用できる洗い場です。車椅子左側にある、少し出っ張ってるんですけど、ここには手すりがついていたり、鏡が少し前かがみになっていなければいけないですけれども、そういった車椅子の方でも、利用しやすい洗い場を手前につくっております。

あと車椅子の方の対応としては、腰を下ろす平場を設けて、そこに一度腰を下ろして、中に入ってもらうとか配慮しておりまして、いろんな人にも大変利用しやすいということをしてほしいということで、立位の方でもう足腰が弱っている方も入りやすいようにここに一度階段を設けて、手すりを設けるような対応をしております。大きくは以上になります。

(委員長) 念のために、このフロア以下は滑りにくいものをぜひ使っていただきたいんですけど、いかがですか。

(金峰山ビレッジ) はい。そのように資材の選定を進めています。あともう1点補足です。お風呂は通常ですと、床から下に下がっていくのが一般的には、大衆浴場には多いんですけども、車椅子の方も利用をしやすいという意味では、そのまま立ち上がって、入れるというような立ち上がり設けた上に、床上にお風呂があるような形になります。

(委員長) ありがとうございます。関連でございせんか。

(委員) 運営面ですけども、やはり学校が利用するのは大変になってくる。そういった意味で、これからの詰めになると思うのですが、受付から退所までの動き、活動内容のプログラムを精査しながら、学校現場の先生方と運営側と一緒に、特に安全面、結局想定外ってということがないように、何がどう動いたときに、危険性とか地区があり得るのか、そういったのを全部チェックをして、学校側と協議をした上で、事業の手引ではありませんけど、そういったものをきちっと整備をしていただく、そういう形の連絡調整協議を、今日も今後利用される方来ていただいていますけども、大半の方、学校が利用してくると思いますので、そこ十分、指定管理者の運営側の方や熊本市とつめていただいて、安全に楽しく子どもたちが利用できるような形でスタートできればと思います。

特に分棟形になってますので、これまでの概念とまた少し変わってくる部分があるのかなど。そういう部分につきましては十分協議をしていただければと思います。これは要望としてお願いをしておきたいと思います。

(委員長) これは、大事な要望ですよ。せかすようですが、来年度に入ったら直ちに学校行事を決めていかなくてはいけないし、運営面で相談しながら、学校もいつ自分の子どもたちを施設に連れていくかという検討をしなければなりません。その分、早めにそういったプログラムとか、ソフト面の充実化を図って頂きたいとそのような意味も含めてお願いします。

(事務局) 小学校5年生の集団宿泊教室は、メインの利用者になりますので、安全に効果的な集団宿泊教室が出来るように、施設側としても学校さんと色々と連携を図りながら、進めてまいりたいと思います。

運営はR.projectさんが担当しますので、金峰山ビレッジ内はもとより、教育委員会としても、しっかり利用者の立場に立って、運営マニュアルであったり、利用の手引あたりもわかりやすく作っていく必要があると考えております。

それから、1点追加ですが、監視カメラの件でございす。7月の金峰山ビレッジさんとの設計建設部会で設置計画は見させていただいたところです。駐車場であったり、野外広場等に複数台設置を計画されています。そこで再度、設置の箇所が適切かというのを、引き続き検討していこうということにしておりますので、次回の会議である程度、設置個所と台数あたりは固めていきたいと思っております。外部からの侵入であったり、火の取扱いであったり、防犯的な部分、また分棟になりますので、子どもたちの動きもしっかりー

把握ができるように、プライバシーにも当然配慮した、設置計画というのを考えていきたいと思っております。

(委員長) ありがとうございます。施設設備面、それから管理運営面、同時に色々ご意見をお聞きしておりますが、運営協議会の方どなたか質問とか、心配な面がございましたらお願いします。

(委員) 遊々の森の森林の所でいろんな活動を予定されることでしょうけれども、新しい施設から、遊々の森へ行こうとするときの、出入口はどの辺になるのかなっていうことをお聞きしたいと思います。

(事務局) 施設のほぼ外周は、国有林で森林管理署のご協力いただきながら、子どもち、また利用者が森林学習、またナイトハイク等も含めて利用させていただいております。

駐車場から降りてくると、正面が国有林になります。昨年、この一帯を間伐されましたけれども、そこに道も新しく出来ていますので、そこについては、フェンス囲みをせず自由に出入りができるようにしたいというふうに思っています。また、現在の食堂棟のところから、外に出る道、また野外多目的ハウスから外に出るフェンスあたりも、なるべく色んなウォークラリーコースを使わせていただいています。今のところ出られるところは出るようにしたいと思います。

会議の中でもイノシシ対策も出ましたので、しっかり戸締まりもできるように開閉式のフェンス箇所を数か所子設けさせていただくということで計画しているところでございます。それから、駐車場の入口には、夜間等に外部からの侵入がないようにフェンスを設置し、それから、野外炊飯棟に通じている所にも開戸のフェンスを設ける計画としています。また詳細については、森林管理署さんと打合せをさせていただきたいと思います。

(委員長) 念のためにいいですか。今フェンスが見えていましたが、害獣対策としても、あのようなフェンスで囲まれるということですか。

(事務局) はい。外周については基本的にフェンスで囲います。駐車場に降りていく所はフェンスは設けませんけれども、夜間は駐車場に入るところにフェンスでしっかりと夜中外部の出入り、またイノシシが入れないように設置したいと思います。

もう一つ、先ほど言いましたけれども炊飯棟に下りて行くところも、開閉式のフェンスを設置します。奥のほうに防火水槽がありますけれども、ここは消防署と打合せしましてダイヤル式にしてフェンスを閉めていても、火災があった時は、消防車両がこの防火水槽まで入られてるように打合せをしているところです。

(委員長) もう一つ害獣対策で、キャンプ場によく食料の余った物とか、炊飯した後のいわゆる残飯など、そういうのを置く場所がありますが、それを目掛けて害獣が来る。食堂のそういったものも含めて、その処理というのはどのように検討されていますか。

(金峰山ビレッジ) 食堂棟の右側に出てくるこの扉、ここは、厨房の出入口になっており

ます。反対側を見ていただいてもよろしいですか。このエリアが少し狭くて申し訳ないんですけど、このコンクリートっぽい白くなっている板、ここが屋外ごみ置き場になっています。そこのごみ置場にごみ口を設けて、施錠できるようになっております。

そういったところで、害獣等はいられないようにするとともに、部分の外周は、メッシュフェンスで囲うことで、二重の安全対策を講じようかなというふうに考えております。

（委員長）とにかく、あちこちでけがしたという話を、特に最近聞いておりますので心配していました。

（委員）宿泊棟 A 棟の外の階段、その階段は 2 階に上がるためのものなのですね。ベランダは無かったですか。

（金峰山ビレッジ）2 階に上がる階段、ベランダを VR 画像にて説明。

（委員）先ほど瓦の話がありましたが、瓦で焚火台は作らないのですか。

（金峰山ビレッジ）焚火台は、なるべく土をベースにしたいという方がいいという場合がありますし、耐久性を求めてコンクリートを固めてほしいという方もいらっしゃいます。もしコンクリートを引くパターンであればそこは焚火の場所は結構活用しやすいパターンと思いますが、それは皆さん、関係者とお話ししながら進めていく必要があると思いました。

（委員長）瓦の活用ですね、まだ決まってないということで、検討いただきたいと思います。ほかにございませんか。

（委員）私も子どもを引率する立場からお尋ねします。すでに、協議の中でこれまでの話合いの中で出ていたのかもしれませんが、確認させてください。

子どもたちの就寝後に、私たちは見廻りという仕事があるんですよね。外灯についてですけれど、何かそういったものがあるのか、どうなのかっていうところを教えていただけたらと思います。

（金峰山ビレッジ）外部の照明ですね。外部の照明については用意しております。計画の概要としましては、宿泊周りにつきましては回廊の上に照明をつけて、夜でも回廊の部分については明るい状態であり移動できるようにしております。

あとテントサイト周りは、ポール灯などの全体的に照らすような照明は設けずに、今見えている広場沿いの園路沿いにガーデンライトといいますか、ちょっと低めの 1 m 位、小さい足元灯みたいなのを配置する程度で、真っ暗にならない程度の照明にしております。ですので、夜の見回り等は、回廊沿いに歩いていただければ各棟にアクセスできるような、アクセスに支障がないような計画にしております。駐車場については基本的にポール灯で、全面的に照度を確保するような計画にしております。

(委員) ありがとうございます。わかりました。安心しました。

(委員長) ご安心をということです。ほかにございませんか。

(委員) テントサイトですけど、最初モンゴルのゲルになっていたと思うんですけど、台風とかそういうのを考えてということだったんですが、ゲルは大平原にあって、台風とか地震とかに強い設計になっているらしいんですけど、それがゲルだともっといいなと思って。あと、夏はテントはちょっと暑いので、ゲルのほうがいいのかと思ったんですけど、再びゲルに戻るっていうのはないですか。

(金峰山ビレッジ) 運営上、R.project さんとも話さないところまでお答えしていいかですけど、ゲルでもいいんですけども、多分、そうすると固定になってしまいますよね。ですので、あとはテントを設営する活動とか体験も大切にしたいというお話も前段で、各所からいただいていたりますので、ちょっとその辺りも踏まえつつ、皆さんとお話ししていく必要があるかなと思います。

(委員長) テントサイトが3つしかないからですね。利用面で常設するような大がかりなテントも欲しいけど、自分たちの家は自分たちで建てるぞというようなですね。そういうことも必要かなと思うし、ニーズが色々難しいだろうと思いますが、検討いただきたいと思います。

(委員) 瓦の件ですけど、私が若いときから、左官さんから言われましたけど、「風呂場と玄関は瓦を敷きなさい。」何でですかと聞いたら、瓦がコンクリートからの水分を吸って、また自分で天気が良いときは吐く、雨の日はコンクリートとタイルが濡れないと言われ、それで、サイトの入口、入り口の玄関で雨の日も濡れてきますから、瓦の活用はどうでしょうか。私の提案ですけど。

(委員長) 専門的な提案ですが。

(金峰山ビレッジ) おっしゃるとおりです。今ちょうど、宿泊棟の入り口の玄関の外、回路側と玄関の内側、いわゆる玄関ですね。そこは今タイルを見込んでたんですが、まず外側はコンクリートを見込んでいたんです。そこは当然瓦を引ける対象として考えております。中に入ると、タイルを見込んでいたんですけども、ここもコンクリートにして、瓦をちりばめるような計画も出来ますので。恐らくそれで進むのではないかなと私は思っています。当然、状態を見つつ、作る人と相談しないといけないんですよ。いわゆる、一般的な作り方ではありませんので、今お話いただいたことを左官屋さんとお話ししていきたい。これからそれをやらせていただくということでありますので、よろしくお願いします。

(委員長) 日本建築もいいと思うんですね、何か話がだんだん膨らんでいきますよね。本当に良いお話をお聞きしました。素晴らしいVRが出来ております。画面を見ながら、

色々思い浮かぶんですが、最後に1人だけ。

（委員）先ほど雨よけのカーテンのお話があったと思います。委員のほうから、常設でつってしまうと景観上と言われたような気がするんですが、雨って突発的に降りますよね。なので、雨が降るかもしれないっていう前提で付けるとなると、実際雨が降ってから付けるので遅いと思うんです。

できればその簡単に付けるっていうことで、1回1回雨が降るかもしれないって予測してその職員の方が付けるっていうのは、あまり現実的ではないかなと。取り外し可能にしても最終的にはずっと付けっ放しになる可能性があると思うんです。なので、カーテンではなくロールスクリーンのように、普段使わない時は畳んで、屋根のところに収納できるというか、イメージとしては雨樋のシャッターがありますよね、シャッター上の部分に種格納されています。ああいうイメージで、下にずっとおろしてフックでかけるような感じだったら、今から雨が降るかもしれないって時に、迅速に対応ができるんじゃないかなと思いましたので、検討いただけるなと思いました。

（金峰山ビレッジ）その通りですので検討します。

（委員長）回を重ねるために、注文が次から次と出てきますが、おかげで理想的な新しい金峰山自然の家ができるんじゃないかなと、わくわくしていきます。映像を見ながらの管理運営面、設営面あわせて検討いただいたわけですがそろそろ時間も来ましたので、次の協議3に移らせていただきます。

それでは、今後のスケジュールについて事務局に説明をお願いいたします。

（事務局）会議資料に基づき、今後のスケジュールについて説明。

（委員長）ご意見ありますか。ご質問どうぞ。

（委員）質問じゃないんですけども要望といいますか。通常3年にわたっての審議会でこういった形でワークショップをやったり、結局手間暇かけて本当にいい公共施設をつくるうということで取組をしていただいたことに本当に感謝をいたします。

これをこれだけで終わらせるのではなくて、今後の公共施設をつくる時の一つのモデルにしていくために、今回こういった形で審議をした内容等について、冊子ではないけども、一つの本にさせていただいて、今後のこういった公共施設整備の手本になるようなものとして、今後残していただければ、熊本市だけじゃなくて全国とか県内の色んな施設が今後建設されていきますけども、色んな形の新しい仕様も含めまして、参考になるのかなと思います。ぜひそういった経費もかかってくると思いますが、建設した暁にはそういったものも残していただくような形を検討いただけないかと思いますので、提案として申し上げたいと思います。今日で審議会を終わりますが、よろしくお願ひしたいと思います。

（委員長）審議会最後の会にあたっての、私も同じ思いを持っておりますが、まず事務局いかがでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。本当に審議会の委員の皆さんには、10回にわたりそれ以外にも、電話とかメールでご連絡させていただいており、ありがとうございます。

今回のこの整備運営事業の特色としましては、PFI方式はもちろんなんですけれども、審議会、協議会での審議を踏まえまして、さらには官民連携事業の中で、第1回目の会議で委員もおっしゃっていただいたんですけども、民には、市民の皆さんも入ってるんだよというお話をしっかり受け止めて取り組んできたところでございます。

市民ワークショップや地元の皆さんの意見とかですね、議事録もきちんと残せていますので、しっかりそういうものをまとめ整理したいと思います。熊本市の政策会議の中でも今回のPFI事業を一つのモデルとして、しっかりデータベース化しなさいと、また次につなげるようにという指示も受けていますので、今、資産マネジメント課とも一緒になってベースデータベース化にも取り組んでる部分でございます。しっかり、次に、いい意味で残せるようにやっていきたいと思ひますし、ほかにPFI事業で高平台団地とかPFI事業でやっていますので、市役所内部でも連携をしながら、お互い情報共有しながらやっています。それをまた、広く市民の皆さんにも情報提供を与えられるように取り組んでまいりたいと思ひます。

(委員長) 良かったら、特別目的会社であります金峰山ビレッジさんからお願いします。

(金峰山ビレッジ) 大変お世話なっております。SPC、金峰山ビレッジを代表しております三津野建設の藤吉と申します。

これまでたくさんの皆さんから色んなご意見をいただき、本当に皆さんでつくり上げていく事業だというふうに私は思っております。本事業についても今、おかげさまで、順調に計画のほうを詰めさせていただいておりまして、実施設計も上がり、建築確認申請後には、本工事のほうも着工してまいります。

そして、施設完成後も、長年にわたって運営をしていく中でも、皆さんからたくさんのご意見をいただきながら、運用していく中で、いろんな課題、問題も見えてくると思ひますので、色んなご意見を反映していきながら対応していつて、そして、ご利用をしていただける、たくさんの方に喜んでいただける、施設づくりを目指してまいりたいと考えております。

そして何よりは、私どもは当初から、テーマづけをしておりまして、わくわくするような施設、子どもたちが、またこの施設に戻ってきたい、家族で利用したいというふうに思っただけのような施設を目指して、そして先ほども言われておりましたように、この事業が全国のモデルになるようにですね、私どもも、SPC一丸となって、頑張つてまいりたいというふうに思ひますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。本日はありがとうございます。

(委員長) 最後に委員の皆さんからございますか。私どもの審議会のほうは、最後になりました。当たり前のことですが、多大な時間とそれから専門家による、我々が全然及ばないような専門的な知識をもとに、意見を述べていただいて注文もたくさん出しました。

ぜひ、理想的な全国に発信できる木材を使うそれも県産の、耐震化も耐える。決して地

元に迷惑な施設と地元の方から言われたいような施設、これは運営面もやっていただきたいと思います。そして最後に市民の税金を使った施設になりますので、幼児から老人まで、多様な方々たちに対応できる。小学校の児童が中心ですけど、ファミリーも喜んで来ていただけるような施設にしていきたいなと思います。当然のことですが、命を守る施設です。まず判断に迷ったら、運営会社の方は命を守ることを最優先に考えていただきたいと思います。どうか素晴らしい施設を作ってくださいよう願ひして、司会進行は終わらせていただきます。

（司会）委員長をはじめ、委員の皆さん、長時間にわたり熱心な協議ありがとうございました。

最後に事務局のほうからのお願いですが、お手元の資料に第1回会議録をつづっております。各委員さんの発言内容をご確認いただき、修正等、追記等ございましたら、8月中旬までに、ご連絡いただければ、事務局のほうで修正させていただきます。

この会議録のほうは発言された委員さんのお名前を外して、会議資料とあわせて市ホームページに公開させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、閉会にあたり原口課長より会議のお礼を申し上げます。

（課長）熱心なご協議、本当にありがとうございました。委員長をはじめ、審議会委員の皆様におかれましては、本当に長期にわたりまして、多大な御尽力をいただきましたことに関しまして、本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

本当に先の見えない状況の中で、本当にここまで、熱心にご議論と、そして、色んな難しい判断があらわれたのではないかなというふうに拝察いたしました。

そういったことを積み重ねてきていただいたおかげで、本当に熊本市のみならず、熊本県、そして全国に注目を恐らく浴びるであろうという、とても素晴らしい野外教育施設の再建に向けた道を、ここまで示していただいたというふうに思っております。まずその取組に関しまして感謝を申し上げます。

令和7年の4月には、熊本市の子どもたち、または市民の皆様が、とても素晴らしい金峰山の自然の中で、笑顔とそして歓喜、喜びの声を上げながら走り回ったり、活動する様子が私の目に浮かんでおります。そういった施設になるように残りの期間を、色んな方々と協力しながら、努力を続けてまいりたいと思います。短い挨拶でございますが、本当にこれまでありがとうございました。重ねて感謝を申し上げ、挨拶を終わります。

（司会）ありがとうございました。これをもちまして、第2回合同会議を閉会いたします。ありがとうございました。